

平成 28 年度

浜田市内遺跡発掘調査報告書

2017 年 3 月

鳥根県 浜田市教育委員会

序

浜田市教育委員会では市内の遺跡を確認するため、平成11年度から国庫補助事業を受けて市内遺跡の発掘調査を実施しています。平成18年度からは市町村合併に伴い、旧那賀郡（金城町・旭町・弥栄村・三隅町）も含めた新浜田市を対象として事業を実施しています。

本書は、平成28年度に実施した埋蔵文化財の調査に関わる成果を記録としてまとめたものとなります。本書が学校教育や生涯学習・開発事業との調整などひろく活用され、文化財保護思想の普及、地域史研究への一助となることを願っております。

おわりに、発掘調査等に際しまして御協力を賜りました地元の皆様、鳥根県教育委員会をはじめとした関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成29年3月

浜田市教育委員会
教育長 石本 一夫

例 言

1. 本書は浜田市教育委員会が平成28年度に国庫補助を受けて実施した市内遺跡発掘調査事業の報告書である。事業は遺跡分布調査と台帳整理、試掘確認調査と関連遺物の整理作業を実施した。
2. 調査は以下の組織で行った。

調査主体	浜田市教育委員会教育長 石本 一夫
調査指導	鳥根県教育委員会 文化財課 高屋茂男（鳥根県立八雲立つ風土記の丘）
調査員	榊原博英（浜田市教育委員会 文化振興課 文化財係 主任主事） 藤田大輔（浜田市教育委員会 文化振興課 文化財係 主任主事）
事務局	浜田市教育委員会 文化振興課 文化財係 文化振興課長 渡邊敏明 文化財係長 川本裕司
3. 調査にあたり協力および従事していただいた方々は次のとおりである。

調査協力	河野 博、高村 仁、竹根道則、津茂谷卓史
調査参加	岩元 進、倉井伸三、佐々木邦文、高原久美子、坪倉ひとみ、 中田貴子、山崎沢野、山本英明
4. 遺物実測図は基本的に1/4スケールを用いている。
出土遺物、実測図及び写真、台帳類の記録は浜田市教育委員会に保管してある。
5. 本書の執筆編集は藤田が行った。

本文目次

第1章 事業の経過	1
第2章 浜田港福井地区臨港道路整備に伴う試掘調査（浜田市熱田町地内）	1
第3章 浜田城裏門跡確認調査	4
第4章 三隅育苗センター造成事業に伴う試掘調査（浜田市三隅町古市場地内）	14
第5章 夕日ヶ丘進入路拡幅工事に伴う浜田城跡確認調査	16

挿図目次

第1図 熱田町地内試掘調査地と周辺の遺跡	2
第2図 熱田町地内試掘調査位置図	2
第3図 熱田町地内試掘調査地土層図	3
第4図 浜田城裏門跡と周辺の遺跡	5
第5図 浜田城裏門跡トレンチ配置図	5
第6図 浜田城裏門跡北東面石垣	6
第7図 浜田城裏門跡遺物実測図 1	8
第8図 浜田城裏門跡遺物実測図 2	9
第9図 浜田城裏門跡遺物実測図 3	10
第10図 浜田城裏門跡遺物実測図 4	11
第11図 三隅町古市場地内試掘調査地と周辺の遺跡	14
第12図 三隅町古市場地内試掘調査位置図	15
第13図 三隅町古市場地内試掘調査地東壁土層図	15
第14図 浜田城跡（夕日ヶ丘）確認調査位置図	17
第15図 浜田城跡（夕日ヶ丘）確認調査地土層図	17
第16図 浜田城跡（夕日ヶ丘）出土遺物実測図	18

表目次

表1 浜田城裏門跡出土遺物点数表	11
------------------------	----

第1章 事業の経過

浜田市教育委員会では国庫補助事業を受けて市内遺跡の試掘確認調査を平成11年度より実施している。平成17年(2005年)10月1日の市町村合併により、那賀郡(金城町・旭町・三隅町・弥栄村)を含めた新浜田市の範囲を対象とする事業となった。

これまでの調査結果については、以下の報告書を刊行している。

- 『浜田市遺跡詳細分布調査-国府地区I-』浜田市教育委員会 平成14年3月
 - 『史跡 石見国分寺跡・県史跡 石見国分尼寺跡』浜田市教育委員会 平成18年3月
 - 『浜田市遺跡詳細分布調査-周布地区I-』浜田市教育委員会 平成19年3月
 - 『史跡 周布古墳・藏地宅後古墳・市史跡 金田1号墳』浜田市教育委員会 平成20年3月
 - 『鳥根県浜田市遺跡地図Ⅰ(浜田自治区)・仕切遺跡』浜田市教育委員会 平成21年3月
 - 『鳥根県浜田市遺跡地図Ⅱ(金城自治区)・七渡瀬Ⅱ遺跡』浜田市教育委員会 平成22年3月
 - 『鳥根県浜田市遺跡地図Ⅲ(三隅自治区)・史跡 石見国分寺跡』浜田市教育委員会 平成23年3月
 - 『鳥根県浜田市遺跡地図Ⅳ(弥栄自治区)・浜田城下町遺跡試掘調査』浜田市教育委員会 平成24年3月
 - 『鳥根県浜田市遺跡地図Ⅴ(旭自治区)・浜田市治和町鰐石試掘調査』浜田市教育委員会 平成25年3月
 - 『鳥根県浜田市遺跡地図Ⅵ・浜田市旭町重富試掘調査』浜田市教育委員会 平成26年3月
 - 『平成26年度浜田市内遺跡発掘調査報告書(県指定史跡浜田城跡・松原遺跡)』浜田市教育委員会 平成27年3月
- 本報告書に収録した内容は、平成26・27年度に実施した確認・試掘調査についてである。

第2章 浜田港福井地区臨港道路整備に伴う試掘調査(浜田市熱田町地内)

第1節 事業の経過

国土交通省により平成24年度から平成29年度の事業期間で、浜田港福井地区の臨港道路整備が実施されることになった。このため、平成24、25年度に臨港道路整備事業予定地内の埋蔵文化財分布調査を鳥根県教育庁埋蔵文化財調査センターと浜田市教育委員会により実施し、2地点において、試掘調査が必要な旨の回答を行った。

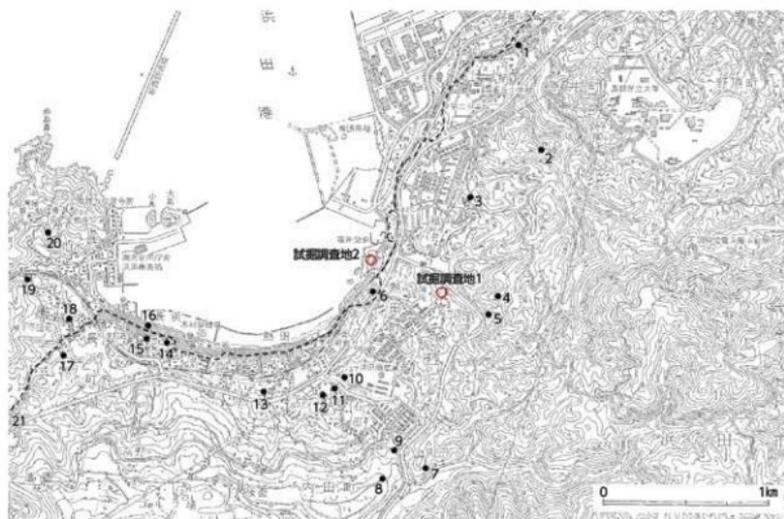
平成26年度は、前年度の分布調査により試掘調査が必要とされる2地点の試掘調査を実施した。調査面積は2地点、計3トレンチの10.25㎡。調査期間は平成26年5月22日～6月19日。

なお、試掘調査地2に関しては、防風保安林内に立地するため、平成26年5月9日付で森林法第34条第2項の規定による保安林内作業許可申請書を提出し、平成26年5月16日付の保安林内土地の形質の変更等許可決定通知書により許可を受けている。

第2節 調査の概要及び結果

試掘調査地1では、標高約71mの丘陵頂部にある墳丘状の高まりに1箇所(トレンチ1、2.5m×0.5m)。試掘調査地2では、標高約24mの独立丘陵頂部平坦面に1箇所(トレンチ2-1、3.0m×1.5m)、丘陵頂部から約5m下がった平坦面に1箇所(トレンチ2-2、3.0m×1.5m)のトレンチを設定した。

調査の結果、各トレンチとも表土下約15cmで地山となり、遺構・遺物は確認されなかった。



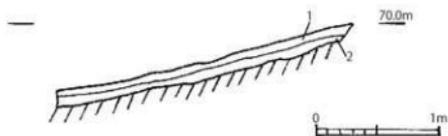
○試掘調査地

1. 白川窯跡 2. 小石見城跡 3. 片良ヶ平遺跡 4. 神田平遺跡 5. 松ヶ谷遺跡 6. 村田窯跡 7. 平野窯跡
 8. 道休畑遺跡 9. 今浦窯跡 10. 小泉窯跡 11. 森脇分家窯跡 12. 森脇窯跡 13. 室田窯跡 14. 訂心寺古墓群
 15. 明清寺前古墓群 16. 永見窯跡 17. 渡辺窯跡 18. 佐々木窯跡 19. 大田窯跡 20. ほうどう寺窯跡
 21. 山陰道

第1図 熱田町地内試掘調査地と周辺の遺跡 (S=1/30,000)

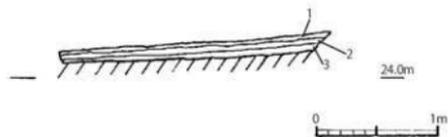


第2図 熱田町地内試掘調査位置図 (S=1/4,000)



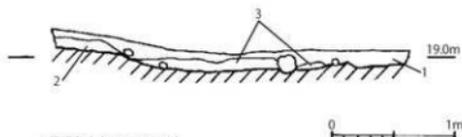
- 1.黒褐色土 (Hue7.5YR3/4)
- 2.風化礫混雑灰土 (Hue5YR6/1)

トレンチ1 完掘状況写真(東より)及び南壁土層図(S=1/40)



- 1.黒褐色土 (Hue7.5YR3/1)
- 2.小礫混にぶい褐色土 (Hue7.5YR5/4)
- 3.小礫混褐色土 (Hue7.5YR4/4)

トレンチ2-1 完掘状況写真(西より)及び南壁土層図(S=1/40)



- 1.黒褐色土 (Hue7.5YR3/1)
- 2.小礫混灰白色土 (Hue10YR8/2)
- 3.小礫混明黄褐色土 (Hue10YR6/6)

トレンチ2-2 完掘状況写真(東より)及び北壁土層図(S=1/40)

第3図 熟田町地内試掘調査地土層図

第3章 浜田城裏門跡確認調査

第1節 事業の経過

平成26年9月、浜田城裏門跡が浜田市指定史跡となった。指定以前より石垣の孕みが顕著であったことから、平成27年1月に石垣を解体積み直しによる修繕が実施されることになり、これに合わせて確認調査を実施した。

平成26年12月12日付、教文第548号で文化財保護法第99条第1項の規定による埋蔵文化財発掘調査の通知を鳥根県教育委員会教育長あてに提出し、調査の実施に至った。

調査面積は天端部1箇所、石垣裾基部2箇所の合計6.53m²。調査期間は平成26年12月15日～平成27年1月20日。

第2節 調査の概要

浜田城裏門跡は浜田市殿町に所在する。近世には、浜田城の裏門としての役割を担い、城下町絵図にも記載されている。絵図によると門の内側に番所、塀を挟んで米蔵が記載されている。また、石垣修理絵図には、裏門に付随する石垣は東側しか記載されておらず、山側となる西側は塀により区画をしていたようである。現在でも山側には石垣の痕跡は確認されない。

裏門より内側は城内となるが、昭和に入り大手前住宅として造成され、現在は裏門石垣背後に民家が建設されている。

天端部トレンチ

塀に伴う遺構検出のために、石垣解体部分に3.7m×0.9mのトレンチを設定した。

上層より黒褐色土（表土）・小礫混黄褐色土・裏込めの順に堆積する。

黒褐色土・小礫混黄褐色土からは瓦や陶磁器に加え、ガラスやプラスチックなどが出土していることから、後世の変更を受けている。このために、塀に伴う遺構の検出はできなかった。なお、北側より2.4m以南は、明確な裏込めは確認できず、礫混黄褐色土の堆積が認められた。

遺物は、瓦・陶磁器類が出土しているが、陶磁器類で明確に近世に遡るものは数点のみである。

石垣裾基部トレンチ1

根石確認のために設定した。隅角部にあたる。

上層より砂利・黒色土・黄褐色土・明黄褐色土・小礫混褐色砂・小礫混黄褐色粘質土、灰色粘質土の順に堆積する。黒色土・黄褐色土・明黄褐色土は造成土である。灰色粘質土上面より湧水し、それ以下の掘削はできなかった。石材はピンボールの刺突では灰色粘質土上面以下でも確認できる。

また、築石部の表土下50cm以下では、上部石垣の面の延長上での石材検出が少なくなり、小礫混黄褐色粘質土が充填されている状況にあった。地表直下の石材が孕んで傾いていたために、石材検出のための掘削も実施しなかった。ただ、ピンボールによる刺突では、明らかに石材の抜けている箇所も確認され、その箇所以外はおおよそ石垣面から10cm程度奥のところで石材が確認された。

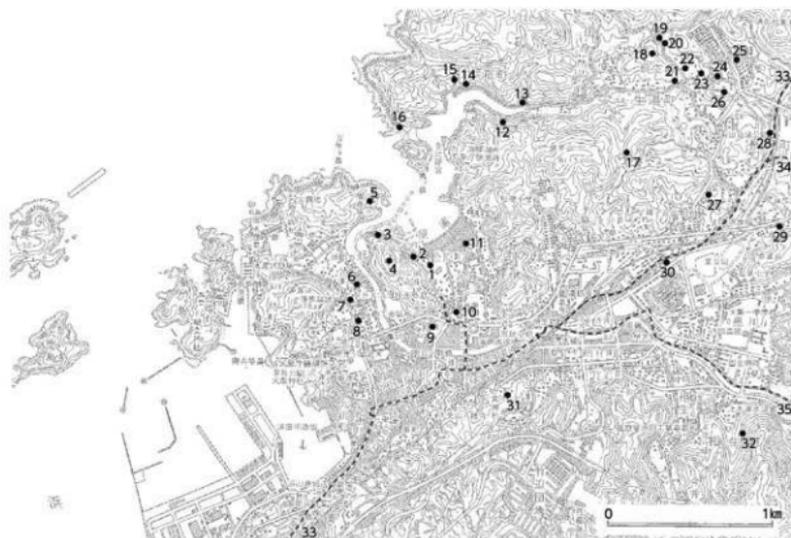
遺物は、瓦・陶磁器類が出土しているが、陶磁器類には明確に近世に遡るものはない。

石垣裾基部トレンチ2

根石確認のために設定した。

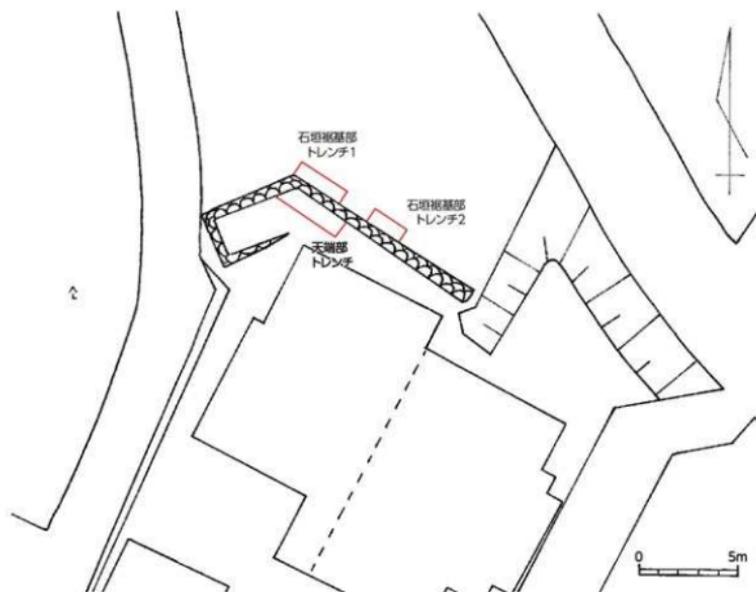
層位は石垣裾基部トレンチ1と同様。灰色粘質土上面より湧水。ピンボールの刺突では石垣は灰色粘質土上面以下、最低30cmは続く。

遺物は、瓦・陶磁器類が出土しているが、陶磁器類には明確に近世に遡るものはない。

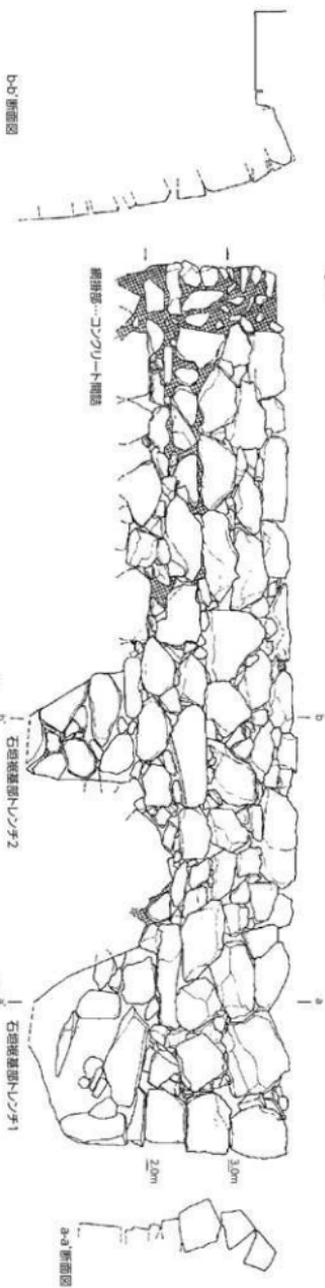
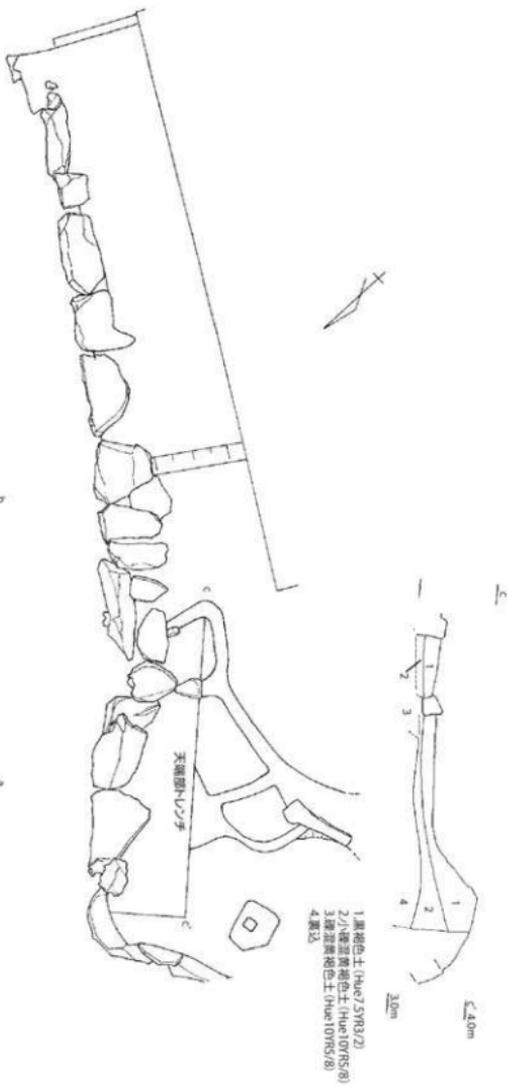


1. 浜田城裏門跡 2. 淡島窯跡 3. お庭焼跡 4. 浜田城跡 5. 動木窯跡 6. 某窯跡 7. 三沢窯跡 8. 某窯跡 9. 夕日ヶ丘古墳
 10. 浜田城下町遺跡 (殿町 79 番地 47) 11. 浜田城下町遺跡 (松原町 268 番地 5) 12. 矢島窯跡 13. 血山窯跡
 14. 内藤窯跡 15. 西山窯跡 16. 日和山方角石 17. 森脇窯跡 18. 川神窯跡 19. 長沢窯跡 20. 川神窯跡 21. 竜谷窯跡
 22. 古山窯跡 23. 原田窯跡 24. 大吉屋窯跡 25. 野海窯跡 26. 尾崎窯跡 27. 吹ヶ迫窯跡 28. タタラ屋窯跡
 29. 大元窯跡 30. 富島窯跡 31. 三重山城跡 32. 社家地古墳群 33. 山陸道 34. 浜田三次往還 35. 浜田広島街道

第 4 図 浜田城裏門跡と周辺の遺跡 (S=1/30,000)



第 5 図 浜田城裏門跡 トレンチ配置図 (S=1/250)



第6図 浜田城遺門跡 北東面石垣 (S=1/60)

第3節 出土遺物（第7～10図・表1）

天端部トレンチ

天端部トレンチは裏込めに至るまで後世の改変を受けているため、層別に区分せずに報告する。

1～7は軒平瓦。1～3は中心飾りが橘文の大坂系。全てにキラコが確認できる。1は中心飾りまで唐草が延びるもので、釘孔が2箇所確認できる。2・3は唐草が中心飾りまで延びないもの。3は唐草の巻きも弱い。右棧もしくは平瓦の可能性もある。4～6は中心飾りが下向きの三葉文。全てにキラコが確認できる。4は左棧であり、唐草は1転で巴状になる。5・6は唐草が線状のもの。5は唐草が2転、6は3転以上の可能性もある。5は浜田城跡表採品でも確認される型式であり、浜田城跡表採品は軒平瓦である。7は中心飾りが橘を表していると思われるが崩れている。風化が激しく、キラコの有無は不明である。

8～11は軒丸瓦。8は外径14.8cm、文様区径10.6cm。珠文径は0.8cmで、復元では珠文数は19個となる。巴は右巻きである。9は外径15.4cm、文様区径12.0cm。珠文径は0.9cmで復元では珠文数は16個となる。左巻き巴で、圏線となり、頭部が詰み気味である。10は復元で外径14.4cm、文様区径10.2cm、巴径7.2cm。珠文径は0.9cm。8と同范と思われる。11の珠文径は1.1cmで復元では珠文数は10個程度である。巴文の断面は三角形を呈する。キラコが認められる。12は巴文が施された瓦。器種は不明であるが、キラコが確認できる。軒丸瓦は天端トレンチからは22点出土しており、そのなかで法量の復元可能なものは11点ある。外径では、12cm台が1点、13cm台が2点、14cm台が5点、15cm台が2点、16cm台が1点であり、14cm台が中心となる。また珠文数では19～20個のものが多い。巴の巻きは左巻が優性である。

13～15は丸瓦。内面調整にはゴザ目、布目、板状痕、棒状痕が確認でき、それぞれが組み合せて組成される。13は内面調整がゴザ目に棒状痕がつくもの。14は内面調整がゴザ目に板状痕がつくもの。15は内面調整にゴザ目が見られるもので、外面には輪違い文と思われる刻印がある。

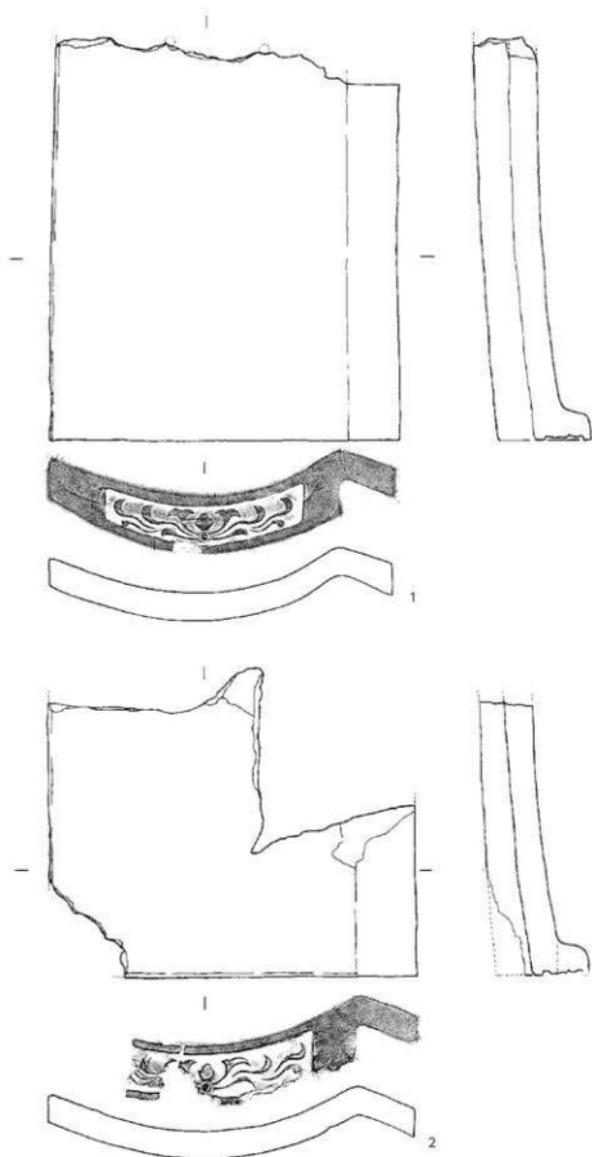
16～18は平瓦。16は左棧瓦。左棧瓦と断定できるものは3点のみの出土である。17は右棧瓦。右棧瓦と断定できるものは64点出土している。18は平瓦と思われる。棧瓦に比べて器壁が厚く、胎土も粗い。

19は袖瓦で、断面には袖部を貼りつけた痕跡が確認できる。20は割鬨斗瓦。外面には使用による風化の差異が見られる。21は輪違い瓦で、内面の前後両端部は面取りされている。22は雁振である。23は器種不明の瓦である。

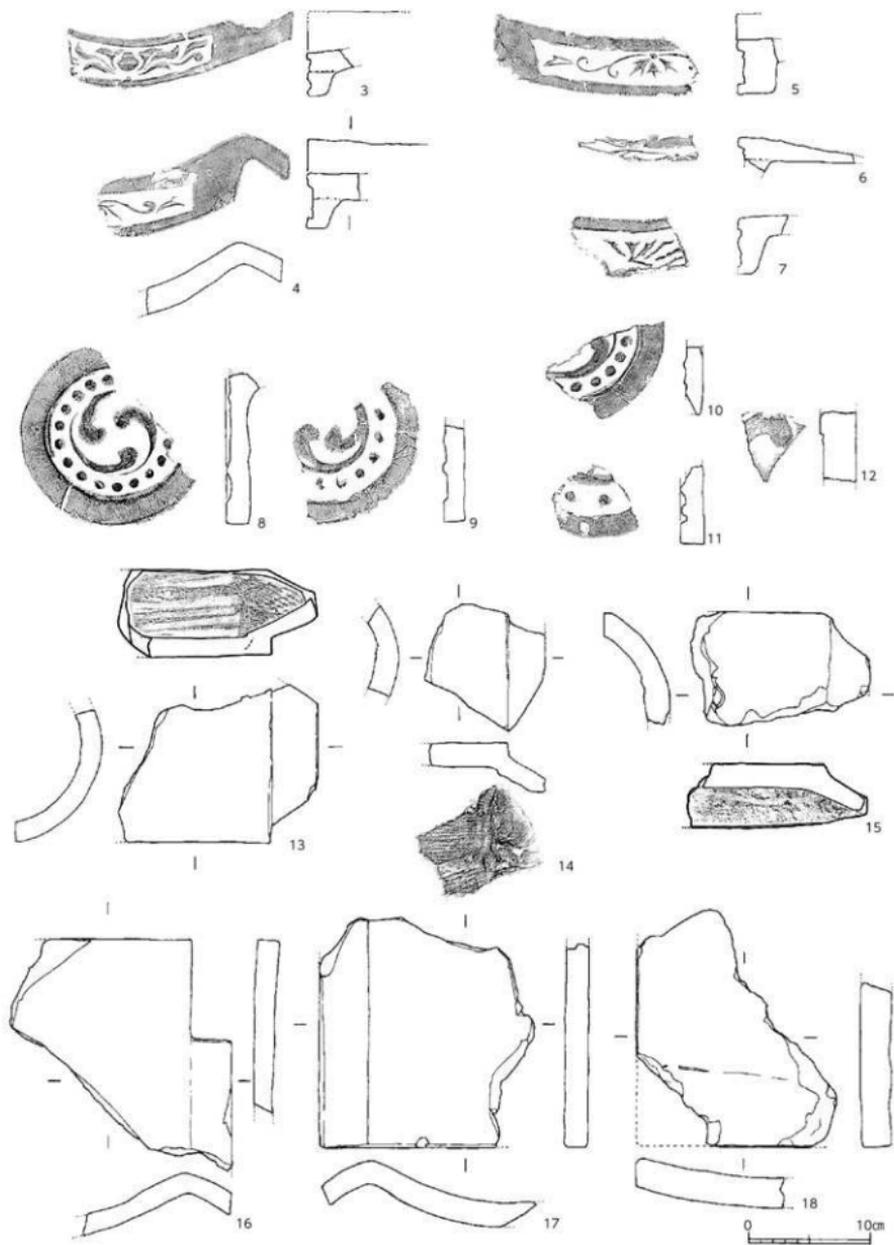
24～31は土器類。24は弥生土器。外面にハケメが確認され、甕の底部である。25陶胎染付椀。26～28は瓶類。26は器壁が薄く、胴部下半に最大径をもつ。外面には薄く施軸をしている。産地は不明である。27・28は在地産である。27の外面には「真光町」、「柏屋」、「醤油」と文字が書かれている。28の外面にも文字があるが、判読できない。29はこね鉢か。30は須佐焼の播鉢。31は在地の甕である。

石垣裾基部トレンチ

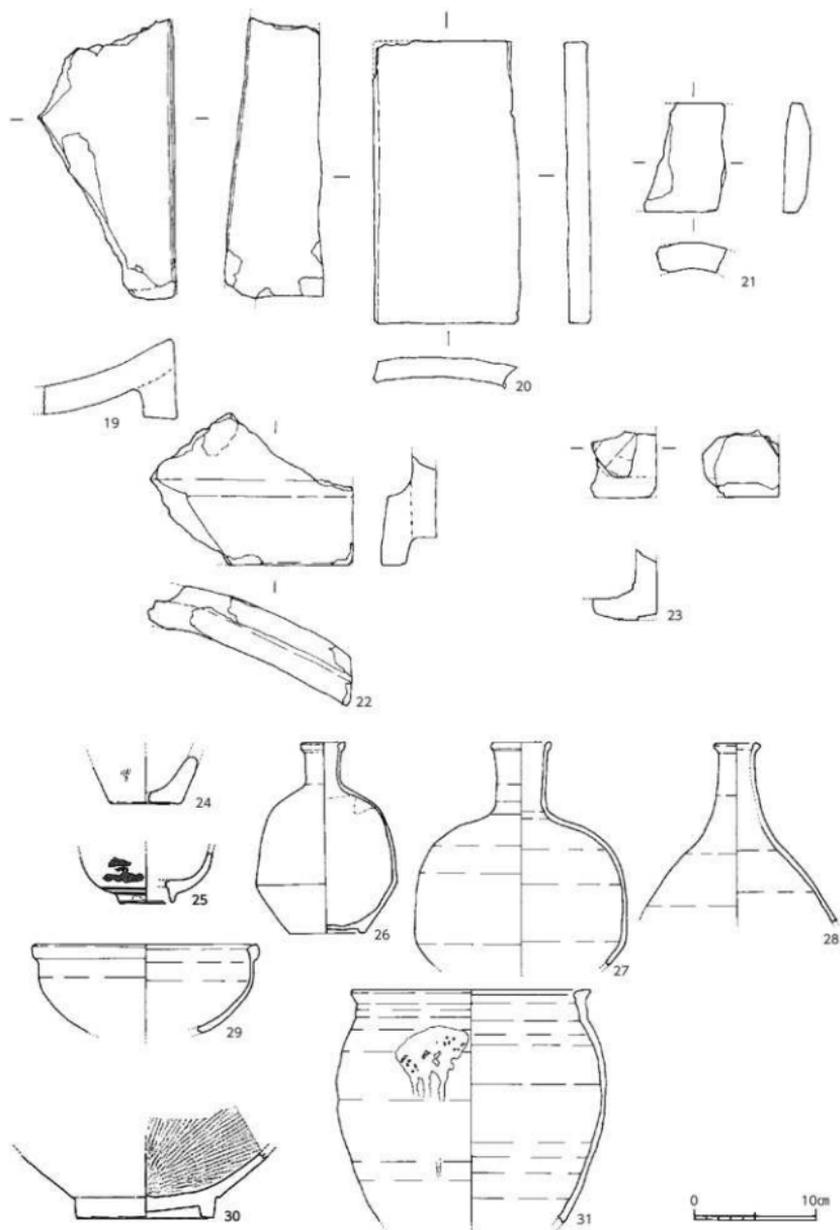
32はトレンチ1の2層出土の軒平瓦。瓦当文様は不明確であるが、左端に唐草が確認できる。33はトレンチ2の7層出土の丸瓦。内面には、布目と吊紐痕が確認できる。34はトレンチ1の2層出土の唐津焼の甕。内面の叩きは格子目文。18～19世紀のもの。35は磁器の蓋。36は磁器の碗。35、36ともトレンチ2の2層出土で、近代以降と思われる。



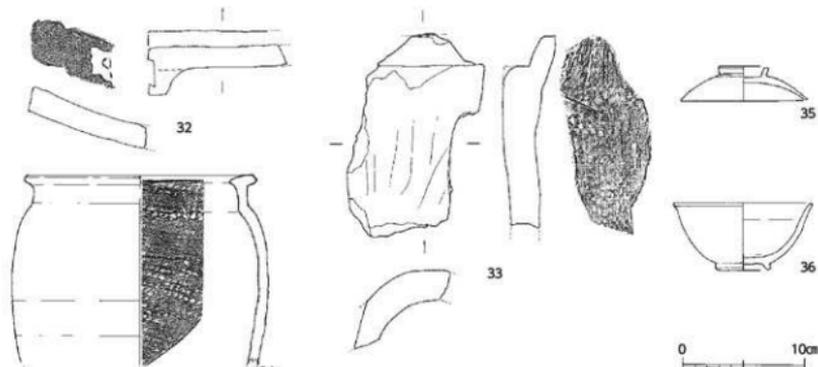
第7図 浜田城裏門跡 遺物実測図1 (S=1/4)



第8図 浜田城裏門跡 遺物実測図2 (S=1/4)



第9図 浜田城裏門跡 遺物実測図3 (S=1/4)



第10図 浜田城裏門跡 遺物実測図4 (S=1/4)

表1 浜田城裏門跡出土遺物点数表

天端部トレンチ瓦類集計

出土層位	屋根													
	軒丸瓦	軒平瓦 (軒栴瓦)	丸瓦	平瓦部 (栴瓦が不明)	右栴瓦	左栴瓦	栴瓦部 (左右不明)							
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)						
1層	15	1.06	12	1.94	212	17.42	888	76.73	43	7.24	1	0.7	92	9.18
2層	2	0.44	8	6.84	55	7.12	129	10.2	6	1.48	0	0	9	0.9
表層等	5	1.12	11	2.9	101	11.44	241	27.14	15	5.8	2	1.56	23	3.54
合計	22	2.62	31	11.68	368	35.98	1,258	114.07	64	14.52	3	2.26	124	13.62

出土層位	屋根													
	数斗瓦	覆屋瓦	袖瓦	輪瓦	道瓦	不明	懸輪瓦							
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)						
1層	19	3.96	2	0.56	0	0	2	0.34	0	0	1	0.1	7	2.24
2層	10	3.74	0	0	2	2.1	0	0	0	0	0	0	7	2
表層等	11	2.7	4	1.06	1	0.1	0	0	1	0.14	0	0	17	2
合計	40	10.42	6	1.62	3	2.2	2	0.34	1	0.14	1	0.1	31	8.24

天端部トレンチ土器類集計

出土層位	陶器										土器			計						
	血瓶	柄瓶	不明	柄瓶	瓶類	甕類	鉢類	不明	甕類	鉢類	七輪	燈檠	火入れ		不明	弥生	土師器面	小片	その他	
1層	7	18	20	4	29	7	4	25	1	1	1	1	1	1	1	1	6	29	157	
2層	0	4	4	0	0	1	1	4	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	5	21
表層等	0	5	0	0	1	1	3	5	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	2	21
合計	7	27	24	4	30	9	8	34	2	2	1	3	1	3	1	1	6	36	199	

石垣基部トレンチ瓦類集計

トレンチ	屋根												
	軒丸瓦	軒平瓦 (軒栴瓦)	丸瓦	平瓦部 (栴瓦が不明)	右栴瓦	左栴瓦	栴瓦部 (左右不明)						
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)					
トレンチ1	0	0	1	0.34	4	0.78	15	2.02	0	0	0	1	0.06
トレンチ2	0	0	0	0	6	1.54	17	2.66	2	0.48	0	2	0.26
合計	0	0	1	0.34	10	2.32	32	4.68	2	0.48	0	3	0.32

トレンチ	屋根												
	数斗瓦	覆屋瓦	袖瓦	輪瓦	道瓦	不明	懸輪瓦						
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)					
トレンチ1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
トレンチ2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.38	2	0.72
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.38	2	0.72

石垣基部トレンチ土器類集計

トレンチ	陶器										土器			計
	柄瓶	瓶類	甕類	鉢類	鉢類	甕類	不明	鉢類	甕類	弥生	土師器面	小片	その他	
トレンチ1	1	0	0	1	3	1	0	2	0	0	1	0	0	9
トレンチ2	4	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	10
合計	5	1	1	1	3	1	0	3	1	0	1	0	2	19

※表の数値は破片数を示したものであり、個体数を示したものでない
 ※土器集計表のその他はタイル・レンガ・鉄製器等

第4節 総括

天端部トレンチ

裏込直上まで後世の改変を受けており、遺構の検出はできなかった。

遺物に関しては、上層の土の由来は不明確ながらいぶし瓦が大量に出土し、ある程度は裏門に付随するものと考えられるが、右棧瓦と左棧瓦が共伴することから慎重に判断する必要がある。今後の門に伴う瓦組成の類例増加をみて、より詳細な遺物の検討を加える必要がある。

石垣裾基部トレンチ

湧水により石垣の根石を確認することはできなかったが、現地表より1.5m下(標高0.3m)まで石垣を確認することができた。なお、地権者によれば、昭和38年以前は田、昭和38年から昭和48年頃までは畑(サトイモ栽培)として利用し、昭和48年頃に造成を行い駐車場にしたとされ、今回の調査では、近年の土地利用の検出に留まった。



調査前状況 (北より)



石垣解体状況



天端部トレンチ完掘状況



石垣裾基部トレンチ1完掘状況



石垣裾基部トレンチ2完掘状況



天端部トレンチ出土 軒丸瓦



天端部トレンチ出土 軒平瓦 1



天端部トレンチ出土 軒平瓦 2



天端部トレンチ出土 丸瓦



天端部トレンチ出土 平瓦



天端部トレンチ出土 瓦



天端部トレンチ出土 土器・陶磁器



石垣裾基部トレンチ出土遺物

第4章 三隅育苗センター造成事業に伴う試掘調査（浜田市三隅町古市場地内）

第1節 事業の経過

平成27年8月18日、株式会社サンワより三隅育苗センター造成事業に係る協議書の提出があった。当教育委員会の分布調査の結果、三隅町井野地内の造成場所においては、遺跡は確認されなかったが、残土処理場として計画されている三隅町古市場地内に関しては、これまでの埋蔵文化財調査事例が少ないことから、その状況を把握する必要性が生じた。このため、株式会社サンワと協議を行い、試掘調査を実施することとなった。

第2節 調査の概要及び結果

調査地は浜田市三隅町古市場 905-1 にあたる。3m × 3m のトレンチを1ヶ所設定し、人力により掘削を行った。調査期間は平成27年9月14・15日。

調査の結果、遺構は確認されず、遺物は2層（灰白粘質土）から土器片1点（時期不明・壺・甕か）、4層（灰白粘質土）から磁器片1点（近代か）が出土したのみであった。地層の堆積状況は、表土下より、水田層である灰白色粘質土・黄褐色粘質土が交互に堆積し、標高0.15mあたりから湧水が激しくなる。湧水面以下は黒灰色砂と黒褐色粘質土が交互に堆積し、三隅川の影響がうかがえる。なお、時期の明らかな遺物が出土していないことから、各層の具体的な時期決定はできない。



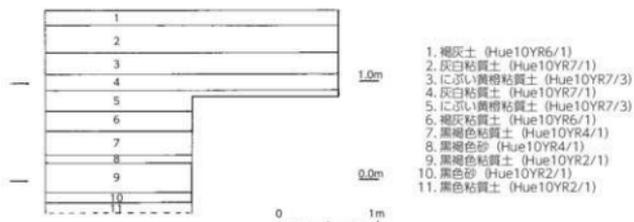
○試掘調査地

1. 海石遺跡
2. 刈立横穴
3. 海石西遺跡
4. 梅ヶ城跡
5. 石田城跡
6. 小野古墳
7. 羽明寺古墳群
8. 伝三隅悪五郎墓
9. 伝三隅兼連墓
10. 鐘尾城跡
11. 正法寺奥の院
12. 廓英法師墓
13. 廓英法師墓周辺古墓
14. 青電城跡
15. 城ヶ迫砦跡
16. 陣ノ尾砦跡
17. 成田郷三角田記念碑
18. 風呂ノ木砦跡
19. 古市場跡
20. 峰口古墓
21. 角落し遺跡
22. 安福寺跡
23. 高田横穴群
24. 三隅石壁
25. 極楽寺横古墓
26. 小金町城跡
27. 針澤城跡
28. 松原遺跡
29. 斎藤家跡
30. 山岡家跡
31. 岡見中学校協遺跡
32. 森井家跡
33. 次郎丸砦跡
34. 中山戸跡
35. 郷遺跡
36. たかのだん遺跡
37. 山腹遺跡

第11図 三隅町古市場地内試掘調査地と周辺の遺跡（S=1/30,000）



第12図 三隅町古市場地内試掘調査位置図 (S=1/3,000)



第13図 三隅町古市場地内試掘調査地 東壁土層図 (S=1/50)



完掘状況 (西より)



出土遺物

第5章 夕日ヶ丘進入路拡幅工事に伴う浜田城跡確認調査

第1節 事業の経過

平成28年1月7日、個人より夕日ヶ丘進入路拡幅工事に係る協議書の提出があった。該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地浜田城跡にあたる。夕日ヶ丘は浜田城山に南接する標高267mの丘陵であり、現在は国道9号線により浜田城山と分断されているが、以前は鞍部により繋がっていた。

昭和40年に直下に国道9号線が敷設されたことにより、夕日ヶ丘の宅地化が進み、その丘陵の大部分は削平された状況となっているが、近世には茶屋などがあったとされており、遺跡の残存状況を確認するために確認調査を実施した。

平成28年2月8日付、教文第537号で文化財保護法第99条第1項の規定による埋蔵文化財発掘調査の通知を鳥根県教育委員会教育長あてに提出し、調査の実施に至った。

調査面積はトレンチ3箇所、合計面積14.05㎡。調査期間は平成28年2月25日～平成28年3月2日。

第2節 調査の概要及び結果

調査地は浜田市殿町123番地2外にあたる浜田城跡の一角である。『濱田城記』（天保10年頃－新修鳥根県史史料篇）には、「…、扱曲輪ノ南ノ方ニ夕日ノ丸ト申テ山有リ、(中略)、往昔此処ニ毛利家ノ吉川駿河守元春陣屋有之、…」とあり、中世城郭として利用されていた可能性がある。また近世の絵図には、該当地に「夕日茶屋」等の記述が見える。

近代に入ると、私立浜田図書館が明治35年8月に設立され、昭和40年に国道9号線が敷設されると、宅地としての利用が増え、アパート等が建設されるに至った。

夕日ヶ丘進入路拡幅により影響が及ぶ場所にトレンチを3箇所設定し、人力により掘削を行った。

トレンチ1 (6.0㎡)

表土下約20cmで風化花崗岩の地山となる。地山はほぼフラットで検出され、後世の削平が窺われる。遺構・遺物は検出されなかった。

トレンチ2 (6.85㎡)

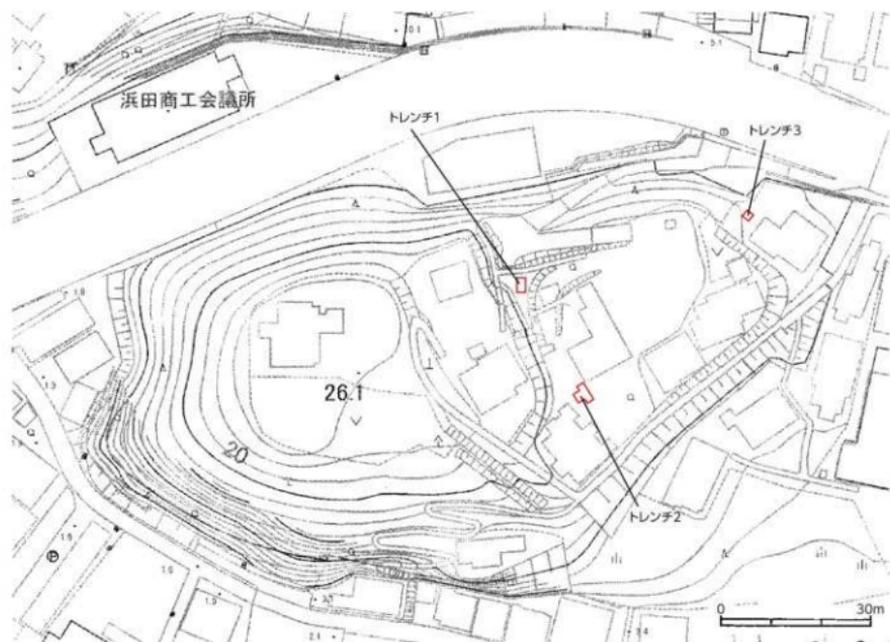
表土下に厚さ20cm程度の造成土である真砂土を検出。この真砂土は南に向かって厚く堆積する。以下、地山直上に至るまで近現代のガラス・磁器片を含む造成と考えられる層が数枚検出され、全て近代以降と考えられる。

遺構としては、地山面に一辺50cm程度の平面方形を呈する土坑が検出されたが、埋土からは近代以降と思われる陶器片が1点出土した。掘り込み面は近代以降の造成によりフラットとなったレベルからであり、遺物から見ても近代以降の蓋然性が高く、後世利用が地山面まで及ぶことが確認された。

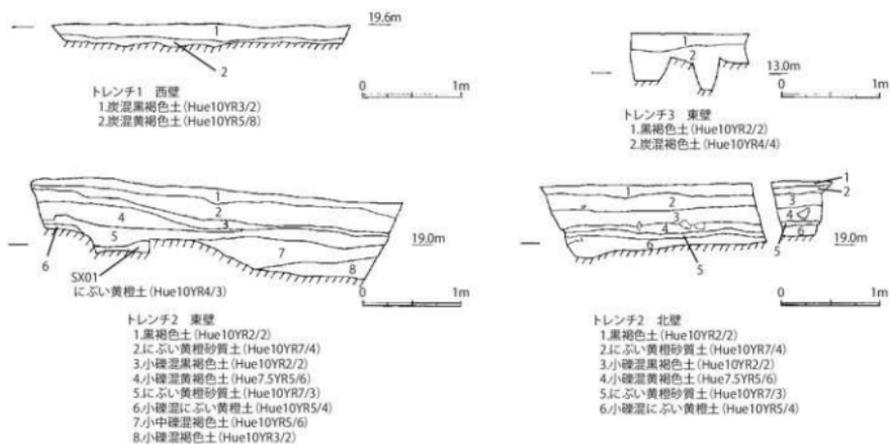
遺物としては、近世のいぶし瓦が数点、近世の土師質皿1点が出土したのみであり、近世以前の遺物は稀薄である。

トレンチ3 (1.2㎡)

表土下約25cmで風化花崗岩の地山となる。近接する家屋に係る枅等が確認されたが、近世まで遡る遺構・遺物は検出されなかった。



第14図 浜田城跡(夕日ヶ丘) 確認調査位置図 (S=1/1,000)



第15図 浜田城跡(夕日ヶ丘) 確認調査地土層図 (S=1/50)

第3節 遺物

トレンチ1及び3においては、近世まで遡る遺物は検出されなかったことからトレンチ2の遺物の報告を行う。

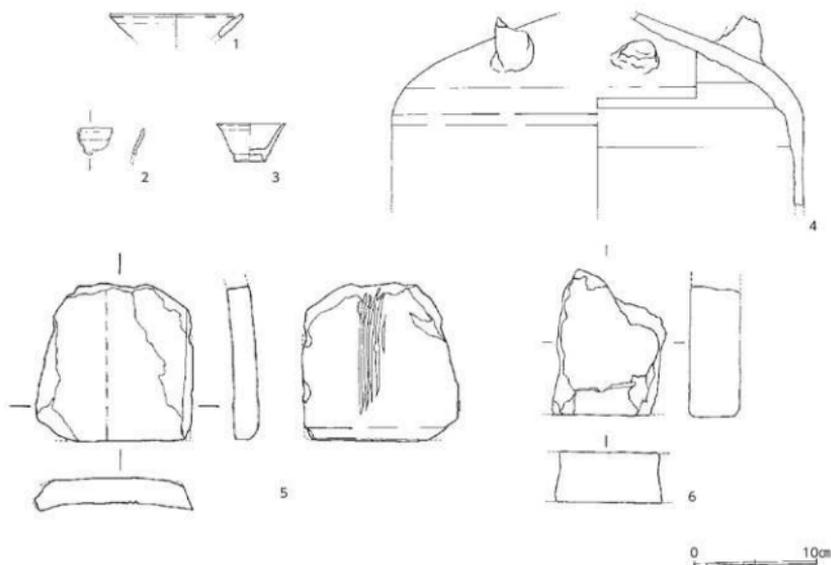
1は8層出土の土師器皿。復元口径は108cmを測る。近世の所産と思われる。2は4層出土の産地不明の陶器碗。内外面に貫入が入る。3は5層出土の磁器の猪口。外面に発色のよいコバルトにより、字が記されている。復元口径5.6cm、器高3.1cmを測る。明治以降と考えられる。4は地山直上より出土した石見焼の硫酸瓶。5は3層出土の鬘斗瓦。いぶし瓦であり、中央を境に色調が異なり、使用痕がある。6は3層出土の埴か。いぶしであり、厚さは4.1cmを測る。

第4節 総括

各トレンチにおいて、近世以前の遺構は確認されなかった。遺物に関しても、近世以前のものは、トレンチ2からいぶし瓦数点、近世土師質皿片1点のみ出土に留まった。近世には前述のとおり、この夕日ヶ丘には茶屋等の施設が存在していたと考えられる。施設の上層構造は不明ではあるが、瓦や土器類の出土量などからも見ても本調査区付近に存在していた可能性は低いと思われる。

またトレンチ1では地山が削平された状況が見られ、トレンチ2からは地山面に近代以降と考えられる土坑が検出されるなど、今回調査した地点においては、後世の改変により、近世以前の様相を窺うことはできない。

なお、平成27年12月15日に高屋茂男氏（高根県立八雲立つ風土記の丘）による夕日ヶ丘の調査指導を受けており、現状では中世城郭の痕跡はないことも確認されている。



第16図 浜田城跡（夕日ヶ丘）出土遺物実測図（S=1/4）



調査地遠景 (正面丘陵上)



作業風景



トレンチ 1 完掘状況 (南より)



トレンチ 2 完掘状況 (西より)



トレンチ 2 完掘状況 (北より)



トレンチ 3 完掘状況 (南より)



出土遺物 1



出土遺物 2

報告書抄録

ふりがな	へいせいじじゅうはちねんど はまだしいせきはつかつちようさほうこくしょ							
書名	平成28年度 浜田市内遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	藤田大輔							
編集機関	鳥根県浜田市教育委員会							
所在地	〒697-8501 鳥根県浜田市殿町1番地 Tel.0855-25-9731 bunka@city.hamada.shimane.jp							
発行年月日	2017年3月							
ふりがな 所有遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北...緯	東...経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あつたまちのち 熱田町地内	鳥根県浜田市 熱田町	32202		34° 52' 27"	132° 03' 49"	20140522 ~ 20140619	10.25㎡	道路整備
はまじょう 浜田城裏門跡	鳥根県浜田市 殿町	32202	L276	34° 54' 09"	132° 04' 34"	20141215 ~ 20150120	6.53㎡	石垣修繕
さんこうち 三溝町古市場 地内	鳥根県浜田市 三溝町古市場	32202		34° 47' 04"	131° 56' 20"	20150914 ~ 20150915	9㎡	残土処理
はまじょう 浜田城跡 (夕日ヶ丘)	鳥根県浜田市 殿町	32202	L27	34° 53' 59"	134° 04' 32"	20160225 ~ 20160302	14.05㎡	道路整備
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
浜田城裏門跡	その他	近世		石垣		瓦		
浜田城跡 (夕日ヶ丘)	城跡	近世		石垣		瓦、陶磁器		
要約	<p>平成26年度及び27年度に実施した試掘・確認調査報告を収録。</p> <p>浜田城裏門跡では、石垣解体修理に合わせ確認調査を実施した。多量の近世瓦が出土したが、天端部分は裏込めに至るまで近代以降の改変を受けていることを確認した。石垣裾基部については、現地表面の1.5m下（標高0.3m）まで石垣を確認したが、湧水により根石までは確認できなかった。</p> <p>浜田城跡（夕日ヶ丘）では、道路整備に合わせ確認調査を実施した。近世の絵図では、茶屋の存在がうかがわれるが、本調査では、近世に伴う遺構の検出はなく、遺物も少量にとどまった。このことから、本調査地の付近に茶屋の存在していた可能性は低いと判断される。</p>							

平成28年度 浜田市内遺跡発掘調査報告書

発行 鳥根県浜田市教育委員会 2017年3月

鳥根県浜田市殿町1番地

印刷 有限会社 原印刷

